

2019年度 白石町立有明東小学校 学校評価計画

1 学校教育目標 本校の歴史と伝統を重んじ、連綿と受け継がれてきた「誠」の教育と、たくましい開拓・干拓精神の維持高揚に努めると共に知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな有明東小学校の子どもを育てる。	2 本年度の重点目標 ① 学力の向上(教職員の資質向上を含む) ② 心の教育の推進 ③ 業務改善の推進と情報発信・地域との連携推進(学校運営協議会との連携推進)	白石町内共通実践目標<達成率95%以上> ① 自ら進んで挨拶をする白石の子どもの育成(家庭・地域・学校で) ② 家庭学習や手伝いに進んで取り組む白石の子どもの育成 ③ 自力登校できる白石の子どもの育成
--	--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 学力向上を目指す教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	考える授業の創造	・年度末に教師向けの4段階アンケートを実施し、『児童に「読む力」、「書く力」、「考える力」をつけるために工夫を凝らした授業に取り組んだ』と回答する平均値が、3.5以上になることを目指す。 ・児童の「読む力」、「書く力」、「考える力」について、12月の学習状況調査では、4,5,6年生が県の平均値を上回ることを、また、1月のCRT調査では、全学年が全国平均値を上回ることを目指す。	・「読む力」、「書く力」、「考える力」の育成を意識し、児童の実態や学年の発達段階に応じた授業展開を工夫する。 ・週に1回、朝の時間を使って、「書く力」や「読む力」、「考える力」の育成を目指した取組を行う。また隔週1回、朝の時間を使って、基礎的・基本的な内容の定着を図る取組を行う。
教育活動	●志を高める教育	目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の取り組み	・「自他のよさを認め合い、共に高め合う児童の育成」を研究主題とした校内研究のまとめ段階におけるアンケートで、自己肯定感の高まり具合について尋ねる項目において、「高まった」、あるいは、「まあまあ高まった」と答える児童が80%以上になることを目指す。	・研究授業を通して、「自他のよさを認め合い、共に高め合う児童」を育成する授業の在り方についての研修を深める。また、研修したことを日常の授業にも活かしていくよう努める。 ・日常の学習や生活場面において、児童のよさを見つけ、認めながら指導・支援にあたる。
教育活動	○図書館教育	図書館の授業活用	・図書館の図書を活用した授業を年1回以上全学年級において行う。	・国語科で各単元の関連図書を活用した授業を行ったり、他教科においても積極的に図書を活用した授業を仕組んだりする。
教育活動	○読書	読書の奨励	・図書を年間100冊以上借りる児童の割合を90%以上にする。	・全校で時間を統一して朝の読書タイムに取り組む。 ・貸出冊数の多いクラスの放送や、月ごとの貸出冊数を担任に知らせるなどして、担任と協力して読書の推進に取り組む。 ・2冊貸出の日数を増やす。(雨の日等)
教育活動	○体育学習の充実	たのしい体育の実践	・体育の授業が楽しいと感じる児童の割合90%以上を目指す。 ・運動が楽しいと感じ、進んで運動に親しむ児童の割合90%以上を目指す。	・めあてやふりかえりを意識した学習を行う。 ・学年間のつながりを意識できるよう、資料の共有を図る。

② 心の教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの実態把握	・「いじめをしている」「いじめを受けている」児童0を継続する。	・定期的に調査(職員・児童・保護者)を行い、児童の実態を掴む。 ・全職員で連携して全児童をみとる。 ・児童理解連絡会を定期的に開き、問題事象の早期発見・早期対応を図る。
教育活動	●いじめの問題への対応	学級集団の質の高揚	・Q-Uアンケートを活用し、「安心して学び合うことができる」と答える児童の割合を90%以上にする。	・授業や日常活動の中で、共に聴き合い学び合う場を意図的に設定する。 ・保護者と連絡を取り合い、共に児童を支えていく。 ・スクールカウンセラーなどの外部機関と連携しながら児童の困り感を軽減する。 ・Q-Uの活用及び研修会を実施する。
教育活動	●心の教育	自治能力の育成	・学級や学校の課題に気づき、みんなで話し合い改善していこうとする児童の割合を90%以上にする。	・学級会の議題を考えることで、課題に気づく視点を育てる。 ・児童集会や縦割り班活動などの企画、運営をさせることで、自分たちの力でより良い学校生活にしていこうとする児童を育てる。
教育活動	●心の教育	挨拶の奨励	・いつでも、どこでも、誰にでも、気持ちの良いあいさつができる児童の割合を90%以上にする。	・定期的に地区ごとのあいさつ運動を実施する。 ・各学年で児童の実態にあった挨拶のめあてを考え、遂行する。
教育活動	●心の教育	自己肯定感の醸成	・自分の良さに気づき、自分を大切にしようとする児童の割合を90%以上にする。	・道徳の時間を核としてすべての教育活動において児童の心を耕していく。 ・帰りの会などで友だちの「いいところ見つけ」をし、互いに認め合う場を設定する。

③ 業務改善の推進と情報発信・地域との連携推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務遂行の効率化に向けた取り組み	・各担当間の業務内容の情報共有を図り、効率的な業務遂行の取組を推進する。 ・定時退勤日を設定し、業務を効率的に遂行していく意識を高める。	・共有フォルダを整理し、データ蓄積と必要な様式、業務に必要なデータの共有化を行い、効果的に活用し、効率的に業務を行う。 ・週1回、定時退勤日を設定し、18時00分退勤(行事黒板に表示)が実行できるよう見直しをもって業務を進めていく。
学校運営	○地域・家庭との連携	地域貢献	・地域行事等への児童の参加率を85%以上にする。	・地域行事や空瓶回収等への積極的な参加を呼びかける。 ・学校運営協議会において地域との連携推進について協議をし、連携した活動を推進していく。
学校運営	○地域・家庭との連携	情報の双方向発信	・「学校や児童の様子が分かる」「学校は相談しやすい」と回答する保護者の割合を90%以上にする。	・学校だよりや学級だより、HP等を活用し学校の教育活動に関するあらゆる情報を継続的に発信していく。 ・困ったことや悩み等が相談しやすい体制を整えていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、朝食をとって自力登校できる児童の割合を90%以上にする。	・健康観察表の裏に、「朝食の喫食」や「自力登校」について確認する項目を加え、声かけにより児童に意識づけをさせる。 ・学級指導や学級活動・保健・家庭科等の授業の中で日々指導と声かけをしていく。 ・「保健だより」「食育だより」等を発行し、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて家庭に啓発する。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目